

脳卒中地域連携パスデータ化について（概要）案

1. 目的

脳卒中地域連携パスに参加している各医療機関が入力するデータベースの項目や入力形式を統一することで、多くの医療機関の患者データベースを結合し、脳卒中治療に関する医学的データの収集や医療機関・施設間の比較などをもとに治療実績等の向上を図る。

2. 管理情報（データ）の分類について

(1) 基本情報（必須項目）

① 医療機関基本情報

ア. 医療機関種別（病院・診療所 or 急性期・リハ期・維持期等）

イ. 医療機関情報（所在地・病床数・医師名・スタッフ数など）

② 患者情報

氏名・性別・年齢・住所・既往歴・機能障害・合併症・リハ環境・
入退院時情報・家族構成

(2) 追加項目（オプション項目）

各医療機関毎に独自で研究目的に沿った内容を任意で追加できる形にする。ただし、あくまでも基本項目が最優先。

3. 機能選択

(1) 連携パスデータを保存しておくだけの場合

サーバも大容量でなくても可能

(2) データベースシステムを構築する場合

① 患者台帳作成機能：全患者の情報入力機能

② リハビリテーション実施計画書等の作成機能等

③ 各種統計等作成機能：月別登録患者数、在院日数・平均在院日数、年齢別患者数、行政提出書類作成

4. データ保管について

(1) データ保管場所

① 神奈川県医師会

本会サーバには、医師会員登録データ等根幹になるデータが保管されているだけでなく、容量的にも対応が難しい。

② 外部サーバ

サーバをレンタル利用する場合のコスト。

③ クラウドシステム

種々の関係法令との兼合い：海外のサーバは使用不可

(2) データ管理について

① データ所有者

患者データの医学的二次利用への対応など

② データ管理者

外部委託とランニングコスト

③ バックアップ等メンテナンスの問題

24 時間の医療体制への対応

④ セキュリティについて

関係医療機関等多数の利用者がサーバを利用することと患者データ漏えい対策

⑤ 管理場所：大学等中核病院（医療エビデンス等）・行政（個人情報問題）

5. 検討課題

(1) 設置者について

(2) 管理運営者・データ所有者について

① 管理運営：脳卒中地域連携パスに参加している各医療機関が入力する各情報データの管理運営者を誰にするか。

② 情報所有者：各情報データの所有者を誰にするか。

(3) 利用者について

① 参加医療機関

② 患者・家族等

③ その他

(4) データについて

① データ量と利用頻度について

② データ保管場所：地震・災害への対応

③ データ保存期間

④ バックアップシステムの構築

⑤ インポート・エクスポート機能：Windows、Office、Mac、Linux 等

⑥ ログ解析システム導入

⑦ 救急医療システムとの連携

(5) 予算について

① システム開発費用：県医師会会員管理システムで開発費用 1,500 万円

② ランニングコスト：県医師会シンククライアントサーバ、メールサーバの
保守料が年間約 250 万円。

③ 費用負担者：ネットワーク参加医療機関より維持費を徴収する。

例：@10,000 円×500 施設=5,000,000 円

(6) 基本データ入力について

① 内部作成：事務労力の負担

② 外部委託：費用負担

(7) スケジュールについて

① 開始年度について

② システム等に関する検討

③ 業者選定・入札（外注の場合）

④ 参加医療機関等に関する周知と募集

⑤ 行政等への申請（必要な場合）

⑥ 参加医療機関等と契約書並びに秘密保持同意書締結

⑦ パイロット版の試行と担当地区の選定

システム図（たたき台）

